

# スポーツジムにおける

令和2年6月8日作成  
(令和5年3月10日更新)  
鳥取県くらしの安心推進課

## 事業継続のための新型コロナウイルス感染拡大予防対策例

問合わせ先 新型コロナ克服くらしの安心 相談・応援窓口	東部 県庁くらしの安心推進課 中部 中部総合事務所環境建築局 西部 西部総合事務所米子保健所	☎0857-26-7982 ☎0858-23-3982 ☎0859-31-9340
-----------------------------------	--	---

### スポーツジムの営業場面ごとの感染拡大予防対策

#### 1 各場面の共通事項

##### <マスクの着用> 令和5年3月13日から適用

- ・マスクの着用は個人の判断に委ねられるものですが、営業者が感染対策上又は事業上の理由等により、利用者又は従業員にマスクの着用を求めることは可能です。  
マスクの着用は場面に応じて適切に選択しましょう。  
従業員のマスクの着用は、従業員の感染防止とお客様を守ることにもつながります。  
マスクの着用を推奨する場面等、店舗の感染対策の内容を掲示しましょう。

##### <従業員がマスクを着用する場面の例>

- ・一定時間以上の会話や近い距離での接客

##### <お客様にマスクの着用を推奨する場面の例>

- ・換気が十分にできない場面
- ・混雑した場面
- ・大声を出す場面
- ・重症化リスクの高い方がいる場面 など

#### 2 開店準備

- ・スタッフに出勤前に体温を測定させ、発熱や咳、咽頭痛等の症状があるスタッフは出勤しないよう呼びかけましょう。
  - ▶**スタッフの体調不良を事前に把握することが重要です。**
- ・感染したスタッフや感染疑いのあるスタッフが出勤しないようにしましょう。
  - ▶**体調不良の方が申し出られるよう、休暇を取りやすい環境・体制を作りましょう。**
- ・開店に備えてスタジオやプールなどの各エリアの扉や窓を開けるなど施設全体の十分な換気をしましょう。
  - ▶**空気を入れ替えることが重要です。窓がない場合は換気扇や扇風機なども活用して空気の流れを作って吸込口（入口）と吹出口（出口）を意識して空気を入れ替えましょう。また、空気の流れを阻害しないパーティションの設置や、十分な外気取り入れとあわせ、奥まった部分にもサーキュレーターで空気を送ることも効果的です。**
    - ① 窓を開けても風が入りにくい場合の工夫  
空気が入ってくる窓を小さく、空気を外へ出す窓を大きく開けて空気の流れを作りましょう。
    - ② 窓がない場合の工夫  
換気口も無い場合は、ドアを開けて扇風機などで部屋の外に空気を出す流れを作りましょう。また、換気口がある場合は、ドアを開けて扇風機などで部屋の中に空気を送り込む流れを作りましょう。
  - ▶**特に換気が不十分になりやすい室内は、に二酸化炭素濃度測定器を設置する等により換気状況を常**

時モニターし、1,000ppm 以下を維持することが望ましい。

- ・施設内の各エリアでお客様が密集しないよう、設置固定している什器（ロッカーやソファ）や運動器具（トレーニングマシンなど）は、人と人の距離（フィジカルディスタンス）を確保できるだけの数に予め設定しましょう。
- ・スタッフの出入りやお客様の動線は可能な限り分離しましょう。
  - ▶スタッフを感染リスクから守ることも重要です。施設裏口等を活用しましょう。
- ・発熱や咳、咽頭痛等の症状のあるお客様には来店いただかないよう掲示をしましょう。トイレのドアノブ、手すり、ロッカー、トレーニングマシンタッチパネルなど、各エリアで多くのお客様が触れる部分は入念に拭き取り清掃及び消毒液による消毒をしましょう。
- ・スタッフは来客用のトイレの使用を控えましょう。
  - ▶接触の機会を減らすことが重要です。お客様とトイレを共有する場合は、これまで以上に手洗いの励行を呼びかけましょう。
- ・感染予防対策に万全を期していることや具体的な対策をスタッフで共有しましょう。
- ・施設利用者の記録を管理して、最短でも1ヶ月分は保持しましょう。
- ・感染予防のためサービス内容の変更・中止も検討しましょう。
  - ▶サービス内容を変更・中止する場合は、その旨を掲示しましょう。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策協賛店はステッカーを入口に掲示しましょう。
- ・鳥取県新型コロナ対策認証事業店はステッカーを入口に掲示しましょう。

### 3 フロント（チェックイン・チェックアウト・入会説明）

- ・フィジカルディスタンスを確保できるよう施設規模やトレーニングマシン数に応じた予約制を取り入れましょう。
- ・来店時にお客様の体調確認を行い、発熱や咳、咽頭痛等の症状のあるお客様のチェックインはお断りしましょう。
  - ▶お客様の体温確認のため、非接触型の体温計の導入も検討しましょう。
- ・
- ・出入口や各エリア入口に手指の消毒設備を設置し、入店時にお客様に手指消毒を要請しましょう。
  - ▶施設内での手指の洗浄や消毒の励行も呼びかけましょう。
- ・フロントでお客様が密集しないようカウンター前に立ち位置を示して、間隔をあけて並んでいただくよう呼びかけましょう。  
フロントで対面する場合は、お客様とスタッフがともに咳エチケットを実践しましょう。
- ・お客様に、施設内で大声での会話は控えていただくよう要請しましょう。
  - ▶施設内放送による呼びかけ等も有効です。
- ・入会のお客様への対応は、チェックイン・チェックアウトのお客様がフロントで密集しないよう別の場所で飛沫感染に注意して行いましょう。会費等の支払いには電子決済を活用しましょう。現金等の受け渡し後には手指消毒をしましょう。
- ・下足ロッカー付近で密集しないよう、フィジカルディスタンスを確保して利用するよう呼びかけたり掲示を行いましょう。

### 4 ロッカールーム（更衣室）

- ・お客様に、大声での会話は控えていただくよう呼びかけたり掲示を行いましょう。
- ・窓を開けたり換気扇を起動し、常時可能な限り換気しましょう。
  - ▶空気を入れ替えることが重要です。扇風機なども活用して空気の流れを作って吸込口（入口）と吹

出口（出口）を意識して空気を入れ替えましょう。

- ・ お客様がロッカー付近で密集しないよう、フィジカルディスタンスを確保して利用するよう呼びかけたり掲示を行いましょ。う。
  - ▶ ロッカールーム内のゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する等の対策を行いましょ。う。
- ・ ロッカーはチェックイン時に鍵を貸し出すなどにより使用状況を管理し、お客様が入れ替わる都度、使用したロッカーの取手や鍵などのお客様が触れる部分を入念に拭き取り清掃及び消毒液による消毒をしましょ。う。
- ・ 設備（洗面台の蛇口取手など）や備品（ドライヤーや体重計など）で多くのお客様が触れる部分は、定期的に拭き取り清掃及び消毒液による消毒をしましょ。う。
- ・ 綿棒、コットンなどの提供やブラシ等の共有は避け、お客様に持参していただくようお願いしましょ。う。
  - ▶ 用意する場合は、お客様ごとに要望に応じて使い捨てや消毒済みのものを提供しましょ。う。

## 5 トレーニングジム

- ・ お客様に、大声での会話は控えていただくよう呼びかけたり掲示を行いましょ。う。
- ・ 窓を開けたり換気扇を起動し、常時可能な限り換気しましょ。う。
  - ▶ 空気を入れ替えることが重要です。扇風機なども活用して空気の流れを作って吸込口（入口）と吹出口（出口）を意識して空気を入れ替えましょ。う。
- ・ トレーニングマシンはお客様同士のフィジカルディスタンスを確保できるよう配置しましょ。う。
  - ▶ 飛沫感染を防止することが重要です。アクリル板や透明ビニールカーテン等で隣のお客様や通路スペースのお客様と遮蔽することも有効です。
- ・ トレーニングマシンに汗拭き用として設置されているタオルの共有は避けましょ。う。
- ・ トレーニングマシンのレバーやサドルなど多くのお客様が触れる部分は、定期的に拭き取り清掃及び消毒液による消毒をしましょ。う。
- ・ トレーニングマシンの使用順番待ちでマシン付近にお客様が密集しないように、整理券発行などの対応をしましょ。う。
- ・ お客様に、使用する前後にトレーニングマシンの触れる部分を拭き取り清掃及び消毒液による消毒をするよう呼びかけましょ。う。
  - ▶ お客様にこまめに消毒いただけるようにトレーニングマシンごとにアルコールを設置しましょ。う。
  - ▶ 接触の機会を減らすことが重要です。お客様に手袋着用のうえで使用していただくことも有効です。
- ・ トレーニングマシンの使用方法を説明するスタッフやトレーナーは、お客様の真正面とならないようにするなど、お客様と可能な範囲でフィジカルディスタンスを保ちましょ。う。
- ・ トレーナーは、補助によるお客様との接触を控えましょ。う。
- ・ トレーニングマシンを使用した後に手洗いをするよう呼びかけたり掲示を行いましょ。う。

## 6 スタジオレッスン

- ・ お客様（付き添いの父母等を含む）に、大声での会話は控えていただくよう呼びかけたり掲示を行いましょ。う。
- ・ 窓を開けたり換気扇を起動し、常時可能な限り換気しましょ。う。
  - ▶ 空気を入れ替えることが重要です。扇風機なども活用して空気の流れを作って吸込口（入口）と吹出口（出口）を意識して空気を入れ替えましょ。う。
- ・ フィジカルディスタンスを確保できるスタジオ収容人数を予め設定するとともに、床にテープを貼るなど、お客様の立ち位置の目安を示しましょ。う。

- ・スタジオレッスンでお客様に貸し出す運動用具（バランスボールやマットなど）は、返却の都度、拭き取り清掃及び消毒液による消毒をしましょう。
- ・場所取りでスタジオ入口付近にお客様が密集しないように、整理券発行や間隔をあけて並んでいただくよう呼びかけるなどの対応をしましょう。
- ・スタッフやトレーナーは、お客様同様に運動する場合はお客様の真正面は避け、フィジカルディスタンスを保ちましょう。
- ・トレーナー自身が大声を出したり、お客様に大声の発声を促すことは控えましょう。
- ・床に手をつくレッスンの場合、レッスン前に床も消毒しましょう。
- ・床に手をついたり、運動用具を使用した後に手洗いをするよう呼びかけたり掲示を行いましょう。

## 7 プール

- ・お客様（付き添いの父母等を含む）に、大声での会話は控えていただくよう呼びかけたり掲示を行いましょう。
- ・窓を開けたり換気扇を起動し、常時可能な限り換気しましょう。
  - ▶空気を入れ替えることが重要です。扇風機なども活用して空気の流れを作って吸込口（入口）と吹出口（出口）を意識して空気を入れ替えましょう。
- ・フィジカルディスタンスを確保できる入水人数を予め設定するとともに、プールやプールサイドの一面でお客様が密集しないように、監視スタッフやトレーナーは状況を監視し、空いているコースへのお客様の誘導や注意喚起をしましょう。
- ・プールサイドのデッキチェアなどはフィジカルディスタンスを確保できるよう配置しましょう。
  - ▶飛沫感染を防止することが重要です。アクリル板や透明ビニールカーテン等で隣のお客様と遮蔽することも有効です。
- ・手すり（水面より上に出ている部分）や洗顔水栓の取手など多くのお客様が触れる部分は、定期的に拭き取り清掃及び消毒液による消毒をしましょう。
- ・プール教室でお客様に貸し出す運動用具（ビート板や浮き具など）は、返却の都度、消毒しましょう。
- ・監視スタッフやトレーナーは、お客様の真正面とにならないようにするなど、お客様と可能な範囲でフィジカルディスタンスを保ちましょう。

## 8 浴室（スパ・サウナ）

- ・お客様に、会話は控えめにさせていただくとともにフィジカルディスタンスを確保して利用いただくよう呼びかけたり掲示を行いましょう。
- ・窓を開けたり換気扇を起動し、常時可能な限り換気しましょう。
- ・脱衣所ロッカー付近で密集しないよう、フィジカルディスタンスを確保して利用するよう呼びかけたり掲示を行いましょう。
- ・ドアノブや脱衣所ロッカーなど多くのお客様が触れる部分は、定期的に拭き取り清掃及び消毒液による消毒をしましょう。
- ・サウナでの防熱マットなどを共有して使用することは避けましょう。

## 9 リラクゼーションスペース・休憩室

- ・お客様に、大声での会話は控えていただくよう呼びかけたり掲示を行いましょう。
- ・窓を開けたり換気扇を起動し、常時可能な限り換気しましょう。
  - ▶空気を入れ替えることが重要です。扇風機なども活用して空気の流れを作って吸込口（入口）と吹出口（出口）を意識して空気を入れ替えましょう。

- ・ マッサージチェアやソファなどはフィジカルディスタンスを確保できるよう配置しましょう。
  - ▶ 飛沫感染を防止することが重要です。アクリル板や透明ビニールカーテン等で隣のお客様と遮蔽することも有効です。
- ・ リラクゼーションスペースや休憩室で水分補給以外の飲食を認める場合は、対面となるテーブルやカウンターにパーティションを設置する、真正面を避けた座席配置とするなど、飛沫感染対策を十分に行いましょう。
- ・ お客様に、必要以上の長時間の利用は控えるように呼びかけましょう。
- ・ 自動販売機のボタンやマッサージチェアの背もたれなど、多くのお客様が触れる部分は、定期的に拭き取り清掃及び消毒液による消毒をしましょう。

## 10 閉店後

- ・ 明日の営業に備えて、スタジオやプール等の各エリアの扉や窓を開けるなど施設全体の十分な換気を行いましょう。
  - ▶ 空気を入れ替えることが重要です。窓がない場合は換気扇や扇風機なども活用して空気の流れを作って吹出口（入口）と吸出口（出口）を意識して空気を入れ替えましょう。
- ・ 施設内清掃を徹底し、各エリアで多くのお客様が触れる部分は、入念に拭き取り清掃及び消毒液による消毒をしましょう。
- ・ スタッフのユニフォームはこまめに洗濯しましょう。
- ・ ゴミ出しの後には必ず手を洗いましょう。

## 11 店舗の管理

- ・ 換気設備を定期的に点検しましょう。
- ・ 手洗い後はペーパータオルを活用しましょう。ハンドドライヤーを使用する場合は、定期的な清掃や消毒をしましょう。
- ・ ゴミはゴミ箱に入れて密閉しましょう。
- ・ 従業員の控え室等も換気や拭き取り清掃及び消毒液による消毒を徹底しましょう。休憩室を複数人が利用される場合は、ディスタンスの確保のほか、会話を控え、定期的な換気を心がけましょう。
- ・ 従業員は、定期的に消毒状況や密集の状況などを点検しましょう。